■　平成 30 年度　第１回　新潟市スポーツ推進審議会

日時：平成 30 年７月 20 日（金）午後３時 30 分から
会場：じょいあす新潟会館　３階「ローズ」

（司会：寺崎）

本日はご多忙の中、平成３０年度第１回「新潟市スポーツ推進審議会」にお集まりいただき誠にありがとうございます。

司会を務めさせていただきます、スポーツ推進審議会事務局、新潟市文化スポーツ部スポーツ振興課の寺崎と申します。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。

使用いたします資料は本日机の上にお配りしたものと、先日郵送し、ご持参をお願いしたものとが、ございます。

本日、机の上にお配りした資料は、会議次第、新潟市スポーツ推進審議会席表、第１回新潟市スポーツ推進審議会出席者名簿、新潟市スポーツ推進審議会条例、「スポ柳都にいがたプラン推進会議」設置運営要綱、カラー刷りの「2018 新潟ヒルクライム」のチラシが１枚、最後に「新潟シティマラソン」の資料が１枚入ってございます。以上でございます。

続いて、事前にお配りした資料の確認をお願いいたします。Ａ３横長のホッチキス止めの資料ですが、平成 29 年度実施事業の進行管理調書。別途ご持参をお願いしたものが、冊子になっております新潟市スポーツ推進計画第２次「スポ柳都にいがた」プラン、同プランの概要版になっております。以上ですけれども、不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、会議の公開および議事録の取扱いについてですが、本市の指針で、会議は原則として公開することとしておりまして、この審議会につきましても傍聴が可能となっております。また、会議の内容につきましても、後日、会議概要または会議録を作成し、ホームページなどで公開いたします。つきましては、会議録等作成のため、本会議を録音させていただきますことをご承知おきください。

また、本日、新潟日報さんの取材が入っておりますので、会議中に写真撮影などがございますが、ご了承いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、スポーツ振興課長の武藤よりごあいさつ申し上げるところでしたが、申し訳ございません、急用が入りまして、そちらに対応することとなりました。あいさつ文を預かっておりますので、代読させていただきた

いと思います。

本日は大変暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

委員の皆様には、日ごろから本市のスポーツ推進に多大なるご協力を賜り、感謝申し上げます。また、大変お忙しいところ、新潟市スポーツ推進審議会の委員をお受けいただき、重ねてお礼申し上げます。任期は２年ということでございますが、今回は新たな任期での第１回目ということです。新たに委員になられた皆様、そして引き続き委員をお願いする皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

本市のスポーツ振興で当面の課題としては、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを２年後に控えて、それに向けたさまざまな取組みということになっていきます。皆様と意見交換をさせていただきながら、本市の施策がよりよいものになるように頑張ってまいりたいと思っています。委員の皆様から、ぜひとも忌憚のないご意見を頂戴できますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。新潟市文化スポーツ部スポーツ振興課長、武藤正明。

代読いたしました。

続きまして次第３、自己紹介に移らせていただきます。

今回は委員の改選後、初めての審議会でございます。はじめに委員の皆様方のご紹介をさせていただきますので、私のほうで委員の皆様のお名前をお呼びいたしましたら、恐れ入りますが、ご起立の上、ひとこと自己紹介をお願いしたいと思います。お座りの席順から、青野委員から時計回りでお願いしたいと思います。

青野光子委員。よろしくお願いいたします。

（青野委員）

皆さん、こんにちは。新潟青陵大学短期大学部の青野光子と申します。よろしくお願いいたします。大学では幼少年期の運動遊びを専門に、保育者養成に携わっております。どうぞよろしくお願いいたします。

（太田委員）

こんにちは。猫山宮尾病院で内科を担当しております太田玉紀と申します。病院では内科診療、特に生活習慣病の管理、また、メディカルフィットネスという健康増進の分野でも仕事をさせていただいております。また、個人のスポーツということでは、新潟県エアロビック、全国のエアロビックでも携わらせていただいておりますので、両方の見地から新潟市のスポーツ推進にお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

（小島委員）

こんにちは。新潟市立日和山小学校の地域教育コーディネーターとして、こちらで皆さんと一緒に席を並べさせていただいています小島です。コーディネーターなので、小学校の職

員として働いています。昨日、今日と、５年生が胎内の少年自然の家で合宿していまして、今日午前中もカヌーに一緒につきあってきました。非常に疲れております。学校と離れては、新潟市ミニバスケットボール連盟で事務局をさせていただいて、つい先日、7 月 15 日に新潟市ミニバスケットボール連盟 30 周年を迎えて、一つ、これからバスケットを区切りと、いろいろなものが変わっていくのかということを、今、岐路に立っているのかなと感じながらスポーツにかかわらせていただいております。どうぞよろしくお願いします。

（齋藤委員）

皆さん、こんにちは。齋藤でございます。11 年ほど前まで放送局に勤務しておりまして、おもにスポーツの中継を担当してきました。11 年前にふるさと新潟に戻ってまいりまして、その関連の会社に勤めておりまして、現在はその関連の会社の非常勤の講師をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

（西原委員）

皆さん、こんにちは。新潟医療福祉大学の健康科学部健康スポーツ学科で教鞭をとっております西原と申します。専門はスポーツ政策とか、あるいは子どもたち、学生たちが、将来体育の先生とかいろいろな地域のスポーツの活動に入っていくときに、どのように気を付ければいいのかといったことをやっております。だいぶこの委員会へのかかわりも長くなってきましたが、またどうぞよろしくお願いいたします。

（山本委員）

皆さん、よろしくお願いいたします。新潟リハビリテーション病院に勤務しております。整形外科を専門にしております。子どもたちのスポーツ障害、高齢者の骨折予防というようなことに取り組んでおりますが、競技はずっと野球をやっていて、今も野球連盟に所属したり、高校野球連盟の理事顧問で、つい今しがたも、明日の準々決勝のＥＣＯスタジアムです、今のこの暑さで野球をやるのは少しどうかと思うのですけれども、やらないわけにいかないという中で、どうやって安全に明日できるかということを高野連の皆さんと相談しているところなのですが、そういう面で、スポーツ全般に、安全にやれるような、そういうことをサポートさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

（大島委員）

皆様、はじめまして。新潟県身体障害者団体連合会の大島と申します。本部のほかに、パラ陸上に主にかかわっております。どうぞよろしくお願いいたします。

（田村委員）

田村千恵子です。新潟市インディアカ協会から選出ということで加わらせていただいております。スポーツが大好きで、体育大学を出て体育の先生を目指していた時代もあり、サッ

カーに誘われて一生懸命サッカーをやって第１回の日本代表に入って海外遠征をしたこともあり、いろいろな経験をしてきて、60 歳を過ぎましたけれども、まだスポーツを愛して、長く、長くスポーツをしたいと思っています。何か力になれればと思って加わらせていただいています。よろしくお願いします。

（野田委員）

こんにちは。新潟県障害者スポーツ協会からまいりました野田文江と申します。よろしくお願いします。午前中は、今はもう休みに入りましたけれども、開発公社の成人教室のお仕事をさせてもらっております。午後からはふれあいプラザに行きまして、障がい者の人たちと、ものすごく楽しんで泳いでおります。泳いでおりますというか、私は浮いております。よろしくお願いします。

（速水委員）

速水裕と申します。新潟市スポーツ推進委員を拝命しております。個人的には、この体型でございますが、日本陸上競技連盟の施設用器具委員会というところに所属しておりまして、マラソンコースとか、陸上競技場の計測とかをやっております。ちなみに、皆さんご存知でしょうけれども、オリンピックとか国体とか、そういう大きな陸上競技をやる施設は、世界で、誤差がプラス４センチメートル以内なのです。400 メートルとプラス４センチメートル以内です。ですから 399.999 ミリメートル、１ミリメートル少なくてもだめです。それを、気温が 20 度のときと、図るメジャーの癖等を全部換算して 400 メートルとプラス４センチメートル以内という距離計算をして、その中で走ったり跳んだりするということでございます。あと、もっと詳しい話は個人的に受けますので、お願いします。

（山内委員）

山内春夫でございます。公益財団法人、新潟市も、国と県に遅ればせながら７月から名称変更で新潟市スポーツ協会という名前に替わりましたけれども、そちらで副会長を務めております。競技としては軟式野球、野球連盟で、県と市で会長をしておりますけれども、山本先生と一緒に、そういう面では、軟式野球では一緒ですし、いろいろな形で野球協議会ということで、広い意味で、新潟は野球に関してはいろいろな野球があるのですけれども、それを全部一堂に会してやるという形で動いているところが一つの大きなところだと思います。2020 年東京オリンピックですけれども、そのときに、毎年神宮球場でやっておりますマクドナルドの学童全国大会、これを東京でできないということで、新潟市で開催するということで今準備を始めておりまして、２年後は全国それぞれの都道府県から参加していただく、51 チームになるかと思うのですけれども、そういう全国大会をやるということで、今、準備を進めているところでございます。よろしくお願いします。

（青木委員）

こんにちは。今回、公募ということで委嘱を受けました青木です。スポーツについては、今、山内会長からお話があったのですけれども、野球に携わっております。新潟市野球連盟の審判部に所属しておりまして、学童、中学、一般ということで審判をやっております。自身も古希野球のメンバーとして、今、古希野球、県内に10チームあるのですけれども、今ちょうどリーグ戦の真っただ中で、10月まで大会があります。また、あとはバウンドテニスも楽しんでおります。２年間という短い期間ですけれども、いろいろ勉強させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

（籠島委員）

こんにちは。公募委員の籠島と申します。専門のスポーツは卓球を20年間続けておりまして、現在、オールアルビレックス「みんなの卓球」というスクールがアピタの亀田であるのですけれども、そちらで卓球コーチの仕事をしています。また、新潟市の学校開放の制度を利用させていただきまして、中央区の子どもたちを中心に卓球を楽しくやっております。これからもスポーツの環境の場を増やしていけるように、微力ですが２年間務めていきたいと思います。よろしくお願いします。

（司会：寺崎）

ありがとうございました。

委員改選に伴いまして、本来ならばお一人お一人に委嘱状をお渡しするところでございますが、机の上に配付することで代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日は五十嵐久人委員、目黒淳委員、阿部美子委員、長谷川智委員、笠原和子委員は、ご都合によりご欠席でございます。小野委員は遅れていらっしゃいますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、事務局を紹介いたます。

改めまして、課長補佐の寺崎と申します。よろしくお願いいたします。

続いて主幹の内山周治でございます。

（事務局：内山）

内山です。お世話になります。よろしくお願いします。

（司会：寺崎）

同じく主幹の中村篤史でございます。

（事務局：中村）

事業グループを担当しております中村と申します。どうぞよろしくお願いします。

（司会：寺崎）

次に、公益財団法人新潟市スポーツ協会事務局長、椎谷八一良でございます。

（事務局：椎谷）

スポーツ協会の椎谷です。どうぞよろしくお願いいたします。上位団体が名称変更した関係もありまして、新潟市体育協会も７月１日付けでスポーツ協会ということで名称変更をさせていただきました。どうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

（司会：寺崎）

スポーツ振興課主査、養田博和でございます

（事務局：養田）

スポーツ振興課の管理グループの養田と申します。よろしくお願いします。

（司会：寺崎）

同じく主事の深沢竜佑でございます。

（事務局：深沢）

同じくスポーツ振興課の管理グループの深沢と申します。よろしくお願いします。

（司会：寺崎）

同じく主事の水嶋優二でございます。今、受付におります。以上でございます。

それでは議事に入ります。

本日資料としてお配りした新潟市スポーツ推進審議会条例に従って進めさせていただきます。

まず定足数の確認です。本日の出席委員についてですが、19 名のうち 14 名が出席となっております。過半数の出席を得ておりますので、新潟市スポーツ推進審議会条例第７条第２項の規定により、本会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

次第に沿って進めさせていただきます。議事（１）正副会長の選出に移ります。会長、副会長の選出は、新潟市スポーツ審議会条例第６条第２項により、委員の皆様の互選により決定することとなっております。つきましては、事務局を仮議長として会長、副会長の選出の議事を進めてまいりたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

ご異議がないようですので、会長、副会長選出までの間、事務局で進行させていただきたいと思います。このまま進行させていただきます。

会長、副会長の選出に入りたいと思います。

事務局から説明がありましたとおり、条例第６条第２項により、委員の皆様の互選により決定することとなっておりますので、選出の方法は皆様からの推薦により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ご異議がないようですので、皆様からのご推薦をお受けしたいと思います。皆様、よろし

くお願いいたします。

（速水委員）

前任の西原会長、山内副会長に、お手数ですが引き続きお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（拍　手）

（司会：寺崎）

ありがとうございます。ただいま、会長には西原委員を、副会長には山内委員をとのご推薦がありましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（一同異議なし）

（司会：寺崎）

それでは、満場一致ということで、西原委員から会長に、山内委員から副会長にご就任いただくということで、よろしくお願いしたいと思います。

西原会長には、恐れ入りますが会長席へのご移動をお願いいたします。

それでは、ご就任いただきました西原会長、山内副会長よりひと言ずつごあいさつを頂戴したいと存じます。西原会長からお願いいたします。

（西原会長）

今ほど推薦いただきました新潟医療福祉大学の西原でございます。今回２期目ということでありますけれども、委員の方々は、本当に皆さんスポーツに造詣の深い方々がたくさんいらっしゃいます。また、人生の先輩もたくさんいる中でこの会長職ということで非常に恐縮していることと、僭越でありますけれども会長職を務めさせていただきいと思っております。ぜひ、ここにいらっしゃる委員の方々、本当にそれぞれ専門的な造詣が深いですので、いろいろなご意見をいただきながらこの審議会を盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（司会：寺崎）

続きまして、山内副会長、ごあいさつをお願いいたします。

（山内副会長）

引き続き、西原会長のもとで副会長を務めさせていただきます。皆さんと一緒に、いろいろな形で頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（司会：寺崎）

ありがとうございました。

審議会条例第６条第３項により、議事進行を西原会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

（西原会長）

よろしくお願いします。先ほど聞いていると野球の方が非常に多くて、私が勤めている大学も野球部の学生が非常に多くて、野球の勢力が強いですが、それぞれ種目の専門の方々からいろいろなご意見をいただいて進めていきたいと思っております。

次第に従いまして、議事を進めていきたいと思います。議事（２）スポ柳都にいがたプラン推進会議委員の選出についてですが、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局：養田）

スポ柳都にいがたプラン推進会議委員の選出について説明させていただきます。

まずお手元の資料で新潟市スポーツ推進審議会条例をご覧ください。スポーツ推進審議会とスポ柳都にいがたプラン推進会議は少し混同しやすいので、まず審議会について補足して説明させていただきます。

新潟市スポーツ推進審議会条例についてですが、第１条から第９条までで構成されています。本日委嘱状を配付させていただいておりますが、当審議会は、新潟市長の附属機関という位置づけにありまして、第３条に掲げる事項について審議していただいております。任期については第５条により２年と定められておりまして、今回、新たな任期の中での第１回ということで、先ほど第６条により会長と副会長を選出していただきましたが、このスポーツ推進審議会とは別に、スポ柳都にいがたプラン推進会議というものをこの審議会の中に設置しております。それにつきましてはまた別の要綱がありまして、１枚ものの資料で、「スポ柳都にいがたプラン推進会議」設置運営要綱をご覧ください。第２条にスポーツ推進審議会を設置するとありまして、協議事項については第３条に記載がありますが、計画の推進と評価等となっております。これにつきましては、次の議題で詳細を説明させていただきますが、委員については、第４条により、審議会の中から選出された者等となっておりますので、今回、スポーツ推進審議会委員の任期が新たになったということで、スポ柳都にいがたプラン推進会議の委員を改めて選出したいと思います。

（西原会長）

ありがとうございました。今ほどの説明について、何かご質問、ご意見がありましたら。よろしいですか。

事務局案として、それぞれの委員の選出について案がありましたらよろしくお願いします。

（事務局：養田）

公募委員２名を新たに委嘱させていただいておりますので、前回からの継続ということで、前回からの委員に引き続きお願いしたいと思いますが、新たな公募委員の皆様にも、この会議に携わっていただきたいと思います。

このスポ柳都にいがたプラン推進会議につきましては、分科会が二つありまして、健康スポーツ・支えるスポーツ・スポーツ情報ネットワークの柱については西原会長、青野委員、速水委員、青木委員にお願いしたいと思います。競技スポーツ・みるスポーツ・スポーツ医科学支援体制の柱について協議していただく分科会については山内副会長、齋藤委員、山本委員、籠島委員。以上８名の皆様にお願いしたいと思います。

（西原会長）

ありがとうございました。以上について、特に、選ばれた委員の方々からご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

８名の委員の方々、大変ではありますけれども、よろしくお願いいたします。特に異議はないということでよろしいですか。

では、よろしくお願いします。ありがとうございました。

それでは、実施計画の推進と評価などをいただきまして、今後もより充実した展開になるよう、推進会議の委員となられました皆様には、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて議事（３）新潟市スポーツ推進計画第２次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画、平成 29 年度実施事業の評価について（概要）について、審議をしていきたいと思っております。事務局から説明をお願いします。

（事務局：深沢）

議事（３）について説明させていただきます。

先ほど選出されましたスポ柳都にいがたプラン推進会議委員の皆様を構成員とするスポ柳都にいがたプラン推進会議にて、「スポ柳都にいがた」プラン実施計画の実施事業の評価や計画の策定をおこなっております。今回初めて推薦会議の委員になられた方もいらっしゃいますので、新潟市スポーツ推進計画第２次「スポ柳都にいがた」プランについての概要から説明させていただきます。お手持ちのプランの冊子をご覧ください。

冊子の３ページをお開きください。

第２次「スポ柳都にいがた」プランで目指すところは、「市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、だれとでもスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現」です。その実現に向けて、４ページから 17 ページに記載のとおりとなりますが、「健康スポーツ」、「競技スポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」、「スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制」の基本方針および基本目標を定めております。

ページが飛びますけれども、18 ページをご覧ください。

本プランの到達目標として、週１日以上スポーツをする市民の割合を 65 パーセント以上に

することを掲げております。これは、国のスポーツ基本計画におけるスポーツ実施率の目標値と同様のものです。なお、本プランの計画期間は平成 27 年度から平成 34 年度までの８年間です。

20 ページをお開きください。

本プランを推進するため、具体的な実施計画として「スポ柳都にいがた」プラン実施計画を２年ごとに策定し、毎年度、各事業の実施状況を評価しております。その際、推進会議の委員の皆様からさまざまなご意見をいただいております。

今年度は、本実施計画第２期の２年目にあたります。今年度のスポ柳都にいがたプラン推進会議では、平成 29 年度の各事業の実施実績を評価します。平成 31 年度の推進会議では、平成 30 年度の各事業の実施状況を評価し、平成 31 年度から平成 32 年度の２年間における実施計画を策定する予定としております。

Ａ３両面印刷の、第２次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画、平成 29 年度実施事業進行管理調書をご覧ください。この調書をもとに、平成 29 年度実施事業の評価を会議で行っていきます。調書の一番右側の列に「取組状況評価」という欄がございますが、ここを埋めていくということになります。評価については、事業が多数あることから、基本方針のうち、健康スポーツ、支えるスポーツ、スポーツ情報ネットワークに関する事業を評価するグループと、競技スポーツ、みるスポーツ、スポーツ医科学支援体制に関する事業を評価するグループに別れ、分科会形式で行います。

なお、本調書なのですけれども、現在、内容の最終確認をしているところであるため、今後、内容に変更があるかもしれませんが、その点、ご承知おきいただければと思います。

推進会議の日程など、詳細については、調整のうえ、後日、推進会議の委員の皆様にご連絡差し上げたいと思います。

次回のスポーツ推進審議会では、スポ柳都にいがたプラン推進会議での評価が入った調書をご提示いたします。次回審議会の開催は３月を予定しており、今日から期間が長く空くため、今回、所管課の評価のみが入った進行管理調書を配付させていただきました。

では、進行管理調書の内容について説明させていただきます。時間が限られていることから、推進会議での評価の対象となる事業のみを、平成 29 年度の目標と実績に絞って説明させていただきます。ページ数は右下に記載がございますのでご確認いただければと思います。

１ページをご覧ください。

基本方針「健康スポーツ」における事業です。

新潟シティマラソンですが、エントリー者数１万 2,000 人の目標に対し、実績は１万 2,957 人でした。

少年少女スポーツ大会ですが、競技ごとにエントリーチーム数を目標設定しており、野球が 75 チーム、サッカーが 81 チーム、ミニバスが 144 チーム、バレーが 27 チームという目標に対し、実績は、野球 72 チーム、サッカー86 チーム、ミニバス 142 チーム、バレー30 チームでした。

早起き野球大会ですが、エントリーチーム数 160 チームの目標に対し、実績 156 チームでした。

新潟シティライドですが、種目ごとにエントリー者数を目標設定しており、ロングライド 550 人、ミドルライド 50 人、ショートライド 50 人という目標に対し、実績は、ロングライド 592 人、ミドルライド 63 人、ショートライド 55 人でした。

新潟ヒルクライムですが、エントリー者数 500 人の目標に対し、実績は 486 人でした。

２ページをご覧ください。

氷上スポーツ体験学習推進事業ですが、実施校数 70 校の目標に対し、実績は延べ 61 校でした。

市民綱引き大会ですが、エントリーチーム数一般の部 16 チーム、小学生の部 50 チームの目標に対し、実績は一般の部 15 チーム、小学生の部 48 チームでした。

健康・体力づくりのつどいですが、参加者数 2,000 人の目標に対し、実績は 2,550 人でした。

市民サッカー大会ですが、エントリーチーム数86チーム、参加者数1,200人の目標に対し、実績はエントリーチーム数 96 チーム、参加者数 1,230 人でした。

市民総合体育祭ですが、開催種目数で春季 20 種目、秋季 30 種目の目標に対し、実績は春季 25 種目、秋季 34 種目でした。

新潟県障がい者スポーツ大会開催事業ですが、参加者数、個人競技が６種目 750 人、団体競技が５種目 130 人の目標に対し、実績は個人競技が６種目 779 人、団体競技が５種目 282 人でした。

少しページが飛びますが、５ページをご覧ください。

基本方針「競技スポーツ」における事業です。

ジュニア強化事業ですが、ジュニア強化事業実施数 27 団体、氷上スポーツ育成事業実施数３団体、にいがたスーパージュニア育成事業数２事業の目標に対し、実績はジュニア強化事業実施数 27 団体、氷上スポーツ育成事業実施数３団体、にいがたスーパージュニア育成事業数２事業でした。

スポーツ指導者講習会ですが、講習会開催数１回、参加者数 100 人の目標に対し、実績は講習会開催数１回、参加者数 62 人でした。

国際大会等出場者激励金ですが、大会種別ごとに出場者数を目標設定しており、国民体育大会出場者 180 人、国際大会出場者６人、小・中・高校生の全国大会出場者 520 人に対し、実績は国民体育大会出場者 201 人、国際大会出場者 19 人、小・中・高校生の全国大会出場者 505 人でした。

６ページをご覧ください。

全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業ですが、派遣人数 18 人の目標に対し、実績は 18 人でした。

全国障がい者スポーツ大会選手強化事業ですが、練習会や合宿の開催を目標としており、実際に開催できました。

障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給ですが、全国大会などへの出場者数が、個人 36 人、団体３団体の目標に対し、実績は個人 26 人、団体４団体でした。

７ページをご覧ください。

基本方針「みるスポーツ」における事業です。

ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業ですが、サッカー教室参加者数 300 人、サッカー指導者派遣数 182 人、サッカー観戦招待者数２万人、野球観戦招待者数 85 組、バスケットボール観戦招待者数 70 組の目標に対し、実績はそれぞれ 130 人、140 人、２万 7,480 人、101 組、110 組でした。

プロ野球招致推進事業ですが、プロ野球公式戦開催数１試合を目標としていましたが、雨天により中止となりました。

大会、合宿等誘致の推進ですが、国際大会数２、全国大会数７、ナショナルチーム合宿数２という目標に対し、実績は国際大会数１、全国大会数２、ナショナルチーム合宿数３でした。

８ページをご覧ください。

氷上スポーツイベント開催事業ですが、イベント参加者数 580 人の目標に対し、実績は 753 人でした。

オリンピックムーブメント事業ですが、参加者数 1,000 人の目標に対し、実績は、訂正がございまして 1,078 人となります。次回配付のときにはこの訂正を反映させていただきます。

国際ユースサッカーｉｎ新潟の開催ですが、観戦者数 4,350 人の目標に対し、実績は 4,350 人でした。

日韓交流少年サッカーの開催ですが、交流会数１回の目標に対し、実績は１回でした。

９ページをご覧ください。

基本方針「支えるスポーツ」の事業です。

スポーツ施設の管理運営・整備ですが、施設利用者数 400 万人の目標に対し、実績は約 416 万人でした。

スポーツ施設の整備・改修方針の検討ですが、集約化に向けての情報収集を目標としており、実際に情報収集を行いました。

スポーツと音楽功労者表彰事業ですが、表彰を実施することを目標としており、実際に実施でき、スポーツ関係者は 10 名の方が表彰されました。

10 ページをご覧ください。

スポーツ推進委員の活動推進ですが、研修会開催数２回の目標に対し、実績は２回でした。

スポーツ振興会の育成・支援ですが、研修会開催数１回の目標に対し、実績は１回の開催でした。

スポ柳都にいがた指導員養成研修会ですが、参加者数 100 人の目標に対し、実績は 60 人でした。

スポーツボランティアの育成ですが、新潟シティマラソンでの学生や企業ボランティア数 100 人の目標に対し、実績は 303 人でした。

ページ飛びまして 13 ページをご覧ください。

基本方針「スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制」の事業です。

目指せオリンピック！医科学サポート事業ですが、スポーツトレーナー派遣競技団体数２団体の目標に対し、実績は２団体でした。

公共予約システムの運用ですが、システム利用件数３万 500 件の目標に対し、実績は３万 590 件でした。

スポーツ振興課ホームページですが、アクセス数 100 万件の目標に対し、実績は約 114 万 4,000 件でした。

以上が、推進会議での評価の対象となる事業となります。ざっと説明したのみですので分かりにくいところもあったかと思いますが、事業内容などの詳細や、評価の対象とならない各事業については、進行管理調書を見て、お読みいただければと思います。

以上で説明を終わります。

（西原会長）

ありがとうございました。今ほど説明があったように、非常にたくさんの事業を一気に説明していただきましたのでなかなかご理解できないところもあるかと思いますけれども、何かご意見、ご質問等がありましたらよろしくお願いします。

（山本委員）

ありがとうございました。

いろいろな目的の活動の中で、新潟市民がスポーツ、レクリエーションを通じてより活動性が向上したというような、指標で、例えば新潟シティマラソンに新潟市民がどのくらい参加しているというような統計なども出されるのでしょうか。例えばそれが増えているとか、そういうようなことを出されると非常に分かりやすいのかなと思います。

（事務局：小熊）

申し訳ないのですけれども、数字そのものを持ってきていないのですが、新潟市内の参加者の方、県内、県外と数字の統計は取ってありますので、お示しすることは可能です。

実際、ほかのマラソン大会に比べますと、新潟シティマラソンは市内の方が走られる率が高いので、そういう意味では、このマラソン大会は、いい感じで開催させていただいていると思っております。

（山本委員）

いろいろな中で市民の参加率というようなものが出てくると、より評価が分かりやすいと思いますので、お願いいたします。

（西原会長）

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

（速水委員）

今のマラソンですと、市民か県民で7,000人くらいではないでしょうか、それくらいの数字だったと思います。ですから、半分は県内とか市内という感じだと思います。

一つお聞きしたいのですが、９ページのスポーツ施設の整備・改修方針の検討というところで、集約化に向けた検討の情報収集とありましたが、収集しましたということですが、どういう情報の収集なのかをお聞かせいただければありがたいと思いますし、もう一つ、国とか県とかと、新潟市というか市町村で違うのは、スポーツをやる人の現場をたくさん持っていると、現場というのは事業をやっているところがたくさんあるとか、そういうことが分かるということなので、いくら補助金を出したとかそういうことではなくて、どれくらいの人がどういう場所で運動をしているのかというような説明が聞こえてくれば、より我々は分かりやすいかという気持ちがします。

分かったらお願いします。

（事務局：寺崎）

集約化に向けての情報収集につきましては、財務部でまとめております施設のカルテですとか財産白書というものがございまして、施設の耐用年数ですとか、造られた年ですとか、利用率などが載っている一覧表のようなものがあるのですが、それを、区のスポーツ担当者会議という会議を１年に２回ほど設けておるのですが、その場で、その施設の白書なり施設

カルテなりから抜き出したデータを配りまして、その区の担当者から、その施設一つ一つについて、今後の方針ですとか活用の仕方などを検討してもらっていました。それを情報収集ということでやっております。

（速水委員）

それで結局どうなったのですか。

（事務局：寺崎）

結果がまだ検討中ということで、情報をまだ収集している最中ということで、今後検討を進めていく予定でございます。

（西原会長）

だいたい、どのくらいを目途として、結果といいますかだいたいのところが出てきて、その後、改修に向けてのスケジュール的なところがありましたら教えていただけますか。

（事務局：寺崎）

一応、３年を目途にというような線は出ていたのですが、なかなか急にいかないものですから、１件、１件、一つ一つ対応していくことができればと思っております。まだ情報収集中、検討中の段階でございます。

（西原会長）

分かりました。速水委員、よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。遠慮なく質問していただいて結構ですが。

（青野委員）

今、報告があった以外でも大丈夫でしょうか。

（西原会長）

最後に全体を通してということでご意見をいただこうかと思っていますが、関連することがありましたら。

（青野委員）

報告は飛ばされたところなので、全体の最後のほうがいいでしょうか。

（西原会長）

この中にある内容ですか。それでしたらどうぞ。

（青野委員）

私の専門分野の内容なのでお伺いしたのです。

４ページ№８、幼稚園運動遊び指導者研修会という事業が実施されておりますけれども、主催が教育委員会学校支援課という形でやられているということで、６月に市内幼稚園教員18名を対象に伝達講習会が実際されたということですけれども、目標値が20名に対して18

名ということになっております。その伝達講習会の内容です。

今、県のスポーツ課にも少しかかわらせていただいておりまして、そのデータによりますと、新潟市は運動遊び関係の研修会とか伝達講習をやっていないというデータが出ておりましたので、ああ、やっていらっしゃると思って嬉しく思って見させていただいているのですが、その実施内容と、参加者18名となっておりますが、園はもっとたくさん、いろいろ公立、私立あるかと思うのですが、その18名は、任意に公募的な形で選んだのか、指定されて、では今回はこの園の18名の方という形でやられたのか、そこをお伺いしたいのと、達成度がC評価になっておりますけれども、その根拠ももし分かりましたらお教え願いたいと思います。

（事務局：養田）

所管課が教育委員会学校支援課になっておりまして、このプランの評価の対象ではないので斜線を入れさせてもらっているのですが、こちらのほうで直接実施している事業ではありませんので、機会を見て、教育委員会に確認の上、次の推進会議のときにそういった情報をお伝えできればと思います。今日はデータがありませんので。申し訳ありません。

（青野委員）

はい。

あともう一点なのですが、施設設備の整備のところに入るかと思うのですが、この酷暑の中で、体育館のエアコン、冷房化ということが今問題になっておりますが、それに対する今後の展望と申しますか、公立の体育館等でもそういう酷暑に対するエアコン化というような方針は、現在、出ておりますでしょうか。

（事務局：内山）

体育施設のエアコンについては市内の比較的新しい施設の東総合スポーツセンター等と基幹施設になります新潟市体育館、ここは冷房設備を持っているところです。ただ、ほかの、地域で一般的に使われる体育館につきましては、委員がおっしゃられるように、現在は冷房設備がない中で利用いただいております。現在の運用としましては、やはり運動をするための指数（WBGT）といいますか危険度を目安にしています。指数が国から示されておりますので、そこを皆さんに分かるように表示して、館内放送などで声掛けをさせていただいているというところが現状です。

実際、冷房設備があれば一番いいというところは、たしかに健康面を含めて考えられるところなのですけれども、現在、施設整備自体の中で、新潟市はスポーツ施設全体で 70、80、そのくらいの施設を持っておりますが、冷房が必要な場合はそのような基幹施設などを、できる限り大会等では使っていただきながらやっていきたいと思っております。

冷房設備を全体に広げていくというところは課題ということで、今、現在の段階では、ど

ういう方針というところも出ておりません。

ただ、今年は本当に、昨年等と比べますと異常といいますか、そういう暑さで、やはり熱中症で救急搬送される方が毎日のように出ているという状況もございますので、そういうところも含めて、今後、集約化というところで先ほどお話もさせていただきましたが、合わせた一つの課題ということで、預からせていただきたいと思っております。

（西原会長）

よろしいですか。

各施設に温度計と湿度計が付いていますね。指定管理などの管理しているところに、そのガイドラインといいますか、この温度になったらというようなところの徹底というのはできているのでしょうか。

（事務局：内山）

環境省からガイドラインが出ておりまして、温度と湿度、それによる危険度が示されておりますので、それを施設に表示するように、各施設管理者には周知しております。

（西原会長）

ありがとうございました。

それから、青野委員が先ほどおっしゃった幼稚園のことで、阿部委員がいらっしゃると幼稚園の代表ということで返答ができたのかと思いますけれども、それも含めて、次回お願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

（小島委員）

先ほど自己紹介でも言いましたが、ミニバスケットボールにもかかわっていますので、ジュニア強化と少年少女スポーツ大会について、質問というか、私の中で疑問に思っていることがあるので、何点か質問したいと思います。

まず、少年少女スポーツ大会なのですけれども、昭和 40 年からということなので、もう 53 年、すごく歴史のある大会だということを改めて感じました。

ただ、多分、始めた頃は、小学校の中でミニバスであったり、その頃はミニバスはないでしょうか、ポートボールでしょうか、野球であったり、小学校の教育の一貫として当時はやっていたと思います。

今、ミニバスケットボールでも、学校の教員がミニバスの指導に携わっているのは多分もう片手いないくらい、一人、二人くらいしかいません。野球に至っては、多分、自分の勤務先の学校で子どもたちを見ているというケースもありません。サッカーは多分ゼロだと思います。

そうやって、小学校の、私の娘、息子がもう28歳とか26歳になるのですが、その子たちが小学校のころはまだ小学校の先生が部活動としてミニバスをやってくれていて、プログラムも学校経由で配達してくれるというか、今はもう個々になのですけれども、時代の流れとともにすべてのスポーツがクラブ化してきていて、少年少女スポーツ大会をする意味が、もともとは、小学生が平等にスポーツする機会を与えるとかそういった意味があったと思うのですけれども、今、少しずつ状況が変わってきていて、実際、このスポーツ大会を行うにあたり、予算的なものもあるでしょう。何年か前からは、例えば新潟市のミニバスケットボール連盟に少年少女スポーツ大会をやってくださいということで、ある程度の予算をいただいて、こちらのミニバスケットボール連盟側で運営しているというのが、ここ３、４年になるでしょうか。そういったことも、体育館を取っていただけるだけで非常にありがたいのですが、何か、私の中ではそれでいいのかとすごく思っていて、実際、ミニバスも野球もそうなのですけれども、学校とのつながりが本当にないといっていいくらい、今年からはうちの学校は激励会もなくなりました。ミニバスとかはクラブチームだから、陸上記録会と水泳記録会だけは激励会はやるけれども、ほかのサッカー、野球、ミニバスは激励会をしませんということで、何となく学校から離れてきている時代になっているので、少年少女スポーツ大会を今後どのように運営していくのか。予算をただ団体に渡すだけでは意味がない気がするので、もっと深く考えていただけるといいかと思っています。

それと合わせて、５ページ、ジュニア強化事業も同じです。どのような形で、それぞれのスポーツの団体に対して、多分、ジュニア強化費としてお金を出していると思うのですが、ミニバスは、お金をもらっているというよりも毎月１回体育館を確保していただいていて、実はそこの確保していただいたところに、選抜チームを春から作っていますので、その選抜チームがそこで練習をする。選抜、ジュニア強化なので選抜チームのためと。

お金をいただけるのはすごくありがたいのですが、使ってくださいではなくて、私はいただいたお金をポンと渡されるだけなので中身を知らないだけだったのかもしれないのですけれども、お金を出しているところに対しては、もっと新潟市としてこうしてほしい、体育館を確保したから使って下さいではなくて、体育館を確保したから、強化だけではなくてすそ野を広げるためとか、もっと行政として強く言ってくれると、団体側も、せっかくいただいたお金なので有効に使いたいと思いますし、たくさんの事業をやって、たくさんのスポーツ団体があるので、その一つ一つ、細かくはできないかもしれないけれども、ある程度のガイドラインというか、どのスポーツに対しても、例えば、ここはクリアしてください、お金は渡すけれどもこのレベルまではクリアしてくださいというような基準を設けていただけると、こちらももっと真摯にお金を使えるということを感じていますので、ぜひその辺をよろしく

お願いしたいと思っています。

（西原会長）

いかがでしょうか。なかなか難しい課題ではあると思いますが。

（事務局：中村）

少年少女スポーツ大会について、回答になるかどうか分りませんけれどもお話させていただきます。

たしかに委員がおっしゃるとおり、開催当初、しばらくは、いわゆる学校のクラブとして、主催者である私どもも、教育委員会の体育課というところでの主催から始まったという経緯もありますし、学校でクラブが各競技あったというところからスタートしていると聞いています。

現状は、おっしゃるとおり、学校のクラブではなくて地域のクラブチーム、地域の大人がコーチ、監督をしていただいていて、その地域の子どもたちがチームを組んでいると。クラブチーム、特にサッカーとかは地域に関係なく集まってきて、いわゆる、本当のクラブチームでやっているというところがあります。

学校のクラブではないから意味がないとかということはないと思うので、私たちとしては、クラブチームであろうが学校のクラブであろうが、小学生がスポーツをする機会を提供するという意味では非常に意味のあるものだと思っています。あと、歴史ある長い大会ですので、例えば親世代が出たことがある、その子どもが出るというところで親子の会話の一つになったり、自分が親世代として出ていたからうちの子どもにも例えばミニバスをやらせよう、少年少女スポーツ大会に出たら俺も出たんだよというようなところも、非常に意味があるものだと考えております。

もう一つ、今、４競技をやっているのですけれども、委託として競技団体にお願いしているものはミニバスケットボールだけです。これにつきましては、お金を投げっぱなしには当然していなくて、私どもも各競技担当ということで付いていますし、その辺は、連携しながらといいますか、必要なところは、行政がするべきところは行政がしておりますので、その辺は連携を取りながらやっていきたいと思っております。

（西原会長）

ありがとうございました。

ジュニア強化のほうも同様ですか。別で何か回答はありますか。

（事務局：椎谷）

ジュニア強化について少しお話させていただきたいと思います。

ジュニア強化につきましては、加盟団体のうち 27 団体にジュニア強化しておりまして、そ

のうち、先ほど委員が言われたとおり、予算をそれぞれの団体に、ランクごとに加盟競技団体が行う強化事業に強化費の助成をしているところです。予算付けの考え方としては、各団体に対してヒアリングを行いまして、実際にどのような選手強化の取り組みをしているか、指導スタッフの体制はどうなのか、計画によって実績はどうなのかなど、そのようなことを聞きながら意見交換をしています。予算は２年に１度の見直しを行い配分しているところです。ジュニア強化事業はミニバスということではなく、バスケットボール協会が選出しているジュニアを対象に行っているものであり、月１回程度の施設の利用は強化事業の中で行う申請受理後、団体で確保しています。

（西原会長）

多分、紙面だけでなかなかそういう細かいところが分からないですけれども、市の事務局としては、かなりいろいろ考えながらやっていますので、また推進会議の中でご説明いただきながら、そういったところもご説明いただいた上で評価していけばいいかと思っています。

（野田委員）

今、熱中症の話が、テレビとか新聞とかで一般的にいろいろ言われているのですけれども、先ほども施設に対するクーラーの設置とかいろいろあります。

私ども年寄りが見ておりますと、学校とか、例えば関係者だけが言われていて、子どもたちが、今スマホの時代です、平成の二宮金次郎のように、どなたも、子どもまでこうなって、大人もこうなって、二宮金次郎がうじゃうじゃいます。そして、夜になっても、子どもたちはご飯を食べたあと、勉強しているのかしていないのかそれは分かりませんが、ほぼそちらを専門にやっているのではないかと思います。

寝なければならない脳みそを寝せないで、子どもはテレビとかスマホとかゲームとか、疲れて寝るのが 10 時を回ります。それから脳が休まるものでしょうか。素人なので分らないのですが、お医者様がいらっしゃるので少しお尋ねしたいのです。

要するに、子どもの脳が休まって、身体も休まって、朝、よし、学校へ行って頑張るぞというときに、本当に体は起きていますでしょうか、今の子どもたちは。あんなにバタバタ、バタバタ、バタバタと、木が倒れるように子どもたちが熱中症になるということは、この年では少し考えられないのですけれども。そこのところは医学的にどうなのでしょうか。

何か、みんな施設の責任にされているように見えるのです。

（山本委員）

やはり以前より暑いし、昔は 30 度を超えればというのが今 35 度とか平気で超えますし、やはり昔と環境も違いますし、あとは、やはり暑さに慣れていない、外で遊ばない子どもたちがいきなりああいう暑さにさらされたときに対応できない体になると思いますし、おっし

ゃるように、やはり夜更かし、子どもは、夜はきちんと早く寝て成長ホルモンが出る時間をちゃんと確保しないと体づくりにも影響があると思いますし、いろいろな要因が今変わっている中で、やはりそれに対応しないとこういう事故が起きてしまうというところです。一つの要因ではないと思いますので、これは本当に、大人がちゃんと守ってあげなければいけないところはしっかり整備しなくてはいけないという意味で、この委員会でその辺もきちんとサポートするような活動をぜひ新潟市で作っていきたいと、私、あとから少し提案させていただきたいと思います。

（野田委員）

すみません。脳みそが起きているのかと思って。

（山本委員）

貴重な意見だと思います。

（野田委員）

もう一つよろしいでしょうか。短く。

昨年は全国障害者スポーツ大会に来ていただいて、ありがとうございました。認められたという気持ちがしました。今年もぜひ、おいでになると思いますけれども、選手への応援をよろしくお願いします。

（西原会長）

お二人の先生方、よろしいですか。何かコメントがありましたら。スマホ等について、あるいは生活習慣について。よろしいですか。ありがとうございました。

もっともっと、いろいろとご意見をいただきたいのですけれども、時間がだいぶ過ぎていますので、また最後、その他のところでご意見をいただければと思っております。

次の報告事項に入りたいと思います。（１）2018 新潟ヒルクライムについて、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局：中村）

２点、まとめて説明させていただきたいと思います。

１点目がこちらのチラシ、「2018 新潟ヒルクライム」というものです。今年は、９月２日に弥彦山を舞台に自転車で弥彦山スカイラインを駆け上がるという新潟ヒルクライムというものを実施するというものです。今年は、前日の９月１日に弥彦競輪場におきまして、新潟県自転車競技連盟と連携しましてタイムトライアルを実施します。このタイムトライアルとヒルクライム、二日続けて組み合わせるというイベントは全国的にもめずらしい、目新しい取組みであると考えております。ヒルクライムにつきましては、距離で 7.6 キロメートル、高低差 520 メートルくらいあるのですけれども、トップ選手ですと 20 分弱で登りきると。ト

ップ選手でなくても、親子ですとか友達同士で参加するという方も多くいらっしゃいます。制限時間は２時間で、昨年は完走率 100 パーセント、スタートした人が全部ゴールしたというような参加しやすいヒルクライム自転車イベントだと考えておりますので、現在、参加者募集中ですので、お知り合いの方、興味のある方、いらっしゃいましたらぜひ参加していただければと思います。

もう１点、「2018 オリンピックデーラン新潟大会」なのですけれども、こちらはまだ資料はないのですけれども、今日ちょうど、参加するオリンピアン、オリンピックに出場した選手が決まりまして、期日は９月 22 日土曜日なのですけれども、日本オリンピック委員会ＪＯＣが主催で、新潟市も共催で、ビックスワンで行うというものです。例えば、新潟出身の水泳の中村真衣さんとか、同じ水泳なのですけれども伊藤華英さんとか、オリンピックに出場したことのある選手が合計８名参加されるということです。もう間もなく参加者募集が開始されるというイベントになりますので、ご紹介いたしました。

（西原会長）

ありがとうございました。報告（１）と（２）を両方合わせての報告でした。

何かこの二つの事業について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

（小島委員）

通行止めになるのですか。

（事務局：中村）

新潟ヒルクライムについては通行止めになります。岩室側から山頂まで、通行止めにして実施します。

（小島委員）

見に行くにはどこかから歩いて行かなくてはいけないのですね。

（事務局：中村）

「いわむろや」か、山頂、反対側から回って山頂のゴールのところで見るか、どちらかになります。コースの途中では見ることはできないのです。

（西原会長）

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

続いて、報告事項（３）第 36 回新潟シティマラソン 2018 について、ご説明をお願いします。

（事務局：小熊）

新潟シティマラソンについてご説明させていただきます。

お手元に、報道資料なのですけれども配付させていただいた１枚紙と、パンフレットを配

付させていただいております。報道資料と書いてある１枚ものの紙をご覧ください。

今回、平成30年７月豪雨、西日本豪雨災害の復興支援チャリティーランナーを急きょ募集することになりましたので、お知らせさせていただきます。

新潟のスポーツを通して何か支援できることはないかということで、今回、この西日本の各地を襲った記録的な大雨、こちらの被害状況を受けまして、被災地や被災された方々への支援を目的にチャリティーランナーを募集することとしております。

皆様の周りにも、まだシティマラソンをお申込みいただいていない方がいらっしゃって、走ろうかなと思っている方がいらっしゃいましたら、ぜひ、お誘いいただければと思います。

募集期間はもう始まっていまして、昨日19日の正午から８月８日午後５時まで募集いたします。申込み方法はインターネットまたは電話になります。マラソン、ファンランとも、申込料のうち、手数料を引いて、マラソンは9,000円、ファンランは5,000円を寄付といいますか義援金として支援をする予定です。ぜひ広報にご協力いただければと思います。よろしくお願いします。

（山本委員）

多分、ご意見がいくのではないかと思うのですが、トンネルを走ることに関していろいろ意見が出たのではないかと思うのですけれども、その辺を少しお話いただければと思います。

（事務局：小熊）

昨年、新潟みなとトンネルを走っていただいた際に、片側、海側のトンネルを往復していただいたということで、あの狭い中を、１万人を超えるランナーの方に走っていただくことになってしまいまして、狭いし暑いし息苦しいしということでいろいろご意見をいただきました。今年は、このパンフレットでは、よく分らないかもしれませんが、往路、東区側に行くときは海側のトンネル。帰って来る、中央区に戻ってくるときはまち側のトンネルを一方通行で、車と同じように走って帰って来るようにしまして、極力、トンネルの中の人の数を減らすということを考えております。

もう一つ、今回、スタートをウエーブスタートといいまして、速い人グループ、遅い人グループという二つのグループに分けて、10分の時間差でスタートするというウエーブスタートという方式を取らせていただいて、そのことによってランナーの塊を少しでも細長くするというような形で、狭い道とかトンネルとか、そういったところの人数を極力減らすような、一度に入る人間を減らすような工夫も、今回、させていただいております。

（山本委員）

トンネルの中を走るということを新潟の特徴としてアピールするということなのですね、この新潟マラソンのアピールポイントとして。

（事務局：小熊）

当初、このコースを選んだ一つの目玉でもあって、山の中を通るトンネルは全国いろいろあるのですけれども、川の下を通るトンネルというのは全国でもそう数がないのです。しかもそこをマラソンで走るというのは新潟だけなので､そういったところで特色の一つとして、一応、コースとしては上げさせていただています。

（山本委員）

多分、昨年片側にしたのは、救急対応でということですね。今年はその辺は大丈夫ということですね。

（事務局：小熊）

おっしゃるとおりで、救急対応で反対側を空けていたのですけれども、今年は普通の道路と同じように、普通の道でも全面通行止めにして走っているところがありますが、そこも、救急車が走る場合は、ランナーは左端に寄っていただいて救急車に走ってもらうのですけれども、トンネルも同じように、左側に寄っていただいて救急車に走ってもらうというように考えております。

（山本委員）

薄まれば大丈夫ですね。私も昨年、生まれて初めてマラソンを走ったのですが、トンネルに入ってびっくりしてしまって。もわっとしていて。これはちょっと、こういう中で２キロも走って大丈夫なのかと心配したら、案の定、いろいろな方から言われたので、もしかして市民も相当苦情を言っているのではないかと心配したのです。

（事務局：小熊）

だいぶ厳しいご意見もいただいておりますが、今年はそういった形で少し工夫させていただいておりますので、よくなることを期待しているところでございます。

（山本委員）

安心しました。

（西原会長）

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。このマラソンについて何かありましたら。よろしいでしょうか。

皆さん、その他で言いたいことがたくさんあるかもしれませんので、終わりにします。

報告事項は以上になります。６「その他」に入りますが、何かその他、全般にわたってご質問、ご意見等ありましたら、よろしくお願いします。

（太田委員）

資料の７ページに戻らせていただくのですけれども、３番の大会、合宿等誘致の推進とい

うところで、国際大会ですとかナショナルチームの合宿があったという報告があります。

これについてはＣと２という評価がついておりまして、これについてではなく、むしろ参加されたナショナルチームの選手ですとか、合宿に来られた方々からどのような感想が得られたかということ。実はこの会議の前回の会議のときにも、会話しましたナショナルチームの選手からは、やはり、合宿地の、練習するところとか宿泊するところ、交通機関とか、そういうことが非常に不便であるということがありましたので、これはＣの２の評価で、今後また現状維持なりチーム数を増やすということにはなるのでしょうけれども、さらに、来られる方々の環境がよくなければ、交通システムを含めて再考していただければと前回も希望を出しましたので、ぜひそのところ、この質問というよりも、どのような意見がきて、今後このスポーツ推進というだけではなく、新潟市全体としての産業の活性化も含めたそういう取組みになっていくというようなことでお願いしたいということでございます。

（西原会長）

ありがとうございました。事務局から何か回答等がありましたら。

（事務局：中村）

ご意見として承りたいと思いますし、より多くの代表選手に合宿していただいて、それを市民なりジュニア選手なりに見ていただくということでスポーツ振興につなげていきたいと思っております。

（西原会長）

ありがとうございました。

新潟市は文化･スポーツコミッションもありますので､またコミッションの事業としても、こういうところはきちんとやっていかなくてはいけないと思っています。

ほかにいかがでしょうか。

（山本委員）

よろしくお願いします。

今、手元にお配りしたのですが、先ほど熱中症のお話もありましたけれども、いろいろな医学的な知識というのは、スポーツをする上で、選手もそうですし、保護者も、指導者も、やはり常にそういった情報が入ってくるような環境を作っていくということはすごく重要なことではないかと。やはり忘れてしまうのです、人は。

それで、今回、このスポーツ審議会に私たち医療にかかわっている者が加えていただいているという中で、スポーツ都市宣言ということをいろいろな地域でやっていますけれども、ぜひ、新潟のこのスポーツ都市という中で、安全安心なスポーツという、そういうものをぜひ加えていただきたい。

今、我々が企画している、始めようとしているのですけれども、スポーツ救護です。子どもたちだけではなく、大人もやはりスポーツをする機会、夏の中で、実際、スポーツをどうやって安全にするかということはこれから本当に大きな課題だと思いますので、今、スポーツ救護ということで、研修会を新潟医療福祉大の先生方と一緒に始めようということで、まず第１回を８月に病院で企画して、教員、養護教諭、保護者、看護師、スポーツクラブの指導者、いろいろな方に受けていただくような企画を今考えているのですが、これをぜひ、将来的に新潟市の取組みとしてこういうものを予算計上して、これはまったくボランティア的にやるつもりではいるのですが、少し考えていただきたいと思って企画を上げさせていただきます。

実は、大分県で少しそういった取組みを看護協会とかいろいろな大きな組織でされているようなのですが、新潟市の事業として、次回に入れていただければと思います。

もう一つ、そのあとのページに、野球フェスタ、青少年野球団体協議会というのは、高野連を中心に、野球団体の事業として過去 10 年くらい、野球人の検診と、子どもたちはひじを壊したり、結局、野球生命を絶たれるような小中学生が全国的にいた中で、新潟県はずっとこういった検診を、これもボランティア活動でずっとやってきました。既に１万 3,000 人くらいの子どもたちをチェックしているのですけれども、野球手帳を作ったり、これは全国で同じ手帳を作り始めたりして、こういう事業は、おそらくいろいろなスポーツにも応用できることですし、こういう事業もぜひまた新潟市で取り組んでいただければと思いますし、実は今、学校の運動器検診というのが始まったのです、昨年から。今、新潟市の教育委員会と整形外科医とでやっていますけれども。スポーツ障害を見つけて医療機関に行くという制度はできているのですけれども、逆に、例えばしゃがみこみができないとか、運動不足の子どもたちに何をしてあげるかというものが何もないのです。例えばそういう運動を嫌いな子、運動をしない子に、何か、集まって運動をする機会を与えていくというような、まさに子どもたちの成長に大事な運動をということを入れることも大事ではないかと思いますので、そういう提案の中で何か活動を、企画を作っていただければというか、むしろ我々が一緒に考えていくべきだと思うのですが、少しその辺を、西原先生、よろしくお願いいたします。

（西原会長）

実は、先ほど少し事務局と事前にお話して、事業は２年間ですので、この事業は来年度までです。その次のときのタイミングで、今山本先生からご提案いただいたようなことが、どこか新しく、あるいは既存の、例えば目指せ！オリンピック医科学サポート事業でもいいのですけれども、何かそういう中に入れ込んでいくことは可能でしょうか。

（事務局：寺崎）

予算的なものも関係しますので、今すぐ可能か不可能かとは言えないのですが、いろいろ、関係課とも調整できると思いますので、検討していきたいと思っております。

（西原会長）

いろいろな既存の事業の中にこれを入れ込んでいくと、多分、それほどハードルは高くないという気がしますので。できればそういうものを考えていただければと思います。

（山本委員）

14 ページの、北区のスポーツ事業の中で、20 億円という実績になっているのですけれども、これは間違いですよね。

（事務局：寺崎）

千円単位、円単位ですね。すみません、間違いということで。

（西原会長）

今、やはり国でも安心安全ということが一つのすごいキーワードになっていて、子どもたちが安心安全にスポーツをできる環境というのが大きな柱になってきていますので、やはりそれを反映させた形で何か新潟市の取組みができればと思っていますし、多分ほかの市町村はあまりまだ、例えば、この山本先生の言った新潟メソッドの野球の協議会で出しているもの、新潟がこれをやったことによって全国でこの新潟メソッドというのは広まっているのです。そういう意味では、こういったものをやはり新潟市から発信していくと非常に発信力があるのではないかと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

（青野委員）

今のお話に関連するかと思うのですけれども、新潟市全体のスポーツに対する取組みというのは、どちらかと言うとトップスポーツというか、ジュニア強化にしても頂点を、オリンピックとか、将来世界選手権に出る子どもたちとか、そういう育成、それはとても大切なことだと思うのですけれども、学童期の子どもたちの運動習慣がいろいろな学会でだいぶ前から指摘されていて、二極化の傾向で、トップはいいかと思うのですけれども、やはり、あまり運動しない子どもたちに対する、安全安心で楽しめる、そういう高いレベルまでは目指さないのだけれども、中央区とかいろいろな区に行くと、定期的にそういう楽しめるスペース、空間、そういうものが保障されていると、特に雪国の新潟の冬季のスポーツはやはり閉鎖的になりますので、ああ、運動って楽しいんだなというところです。

トップだけではなくて、やはりそのベースとなる、そんなに運動が得意ではない子たちが大多数だと思いますので、その辺も少し力を入れていくことが大切ではないかと思うのが１点と、もう一つは、やはり高齢化社会に向けてです。やはり寝たきり予防とか、各自治体で取り組んでいるとは思うのですけれども、何年か前から少しお願いはしているのですが、い

ろいろな地区の公民館活動等で健康体操とか、高齢者の方たちのいろいろな自主的な体操のグループであるとか、ダンスグループであるとか、そういう中高年の方が取り組んでいる団体に対して、楽しみも含めて、目標となる発表する場があると活動もより高まっていくのではないかと思うのです。上越のほうでは、日本体操協会の一般体操部門と連携して「上越体操祭」が実施されているのですけれども、やはり県庁所在地である新潟市で、市民の方の健康、寝たきり予防も含めたり、そういう、競技ではないのですが高齢者、中高年の方たちが生きがいを持って取り組めるような、安全安心で楽しい、そういうものを支える事業があっていただきたいというのが希望でございます。

（西原会長）

ありがとうございました。

（山内副会長）

山本さんに質問があるのですけれども、さしあたって、この目の前の８月なのですけれども、この日にちはもう決まっていますか。

（山本委員）

参加者がまだ少ないので、いろいろな都合を聞きながら日にちを決めているところなのですけれども、まだ一般的にしていないので、本当にすごくクローズな、ただこういう会を今後どんどん広げていきたいということです。ぜひ新潟市と一緒に、市の認定制度のような、こういうスポーツ救護認定員のような新しいものを創設してもいいのではないかと思っているのです。資格ではなくて認定なので研修を受けて貰って。研修を３回受けると認定される。そういう広がりを、予算付けをぜひ何とか頑張っていただいて。

（山内副会長）

会場の関係で、何人くらいが定員として。

（山本委員）

マックス 30 人くらいです。病院の研修室で、講師もみんなボランティアなので、参加もあれなので、今、始めようとしているところなのです。

（山内副会長）

30 人で、日にちもまだ、広報はいつくらいという、何日から。変更はあっても。

（山本委員）

広く公募する予定は今のところないのです。身内というか、少し興味がありそうな人たちに配ろうかと思っているくらいなのです。

（山内副会長）

もう一つ。さしあたっての予算としてどのくらいを想定するのかというのは。

（山本委員）

会場費と、講師に交通費とちょっとした謝礼くらいです。年間３回か４回やるにしても、１回、会場費で５万円くらいでしょうか。どこを借りるかによるのですけれども。もう少し公的なところであればもう少し安くすむと思います。1回 10 万円くらいの予算であれば。年間、40、50 万円くらいの予算を付けていただけるといいのですけれども。

あとは参加費をもらえればかなりそれで。取ってもいいかと思っているのです。1,000 円とか。

（山内副会長）

市ももちろんそうなのですけれども、一つ、スポーツ協会がどういう形で入るかで、市とスポーツ協会で共同でということで、一番大きいのは、予算といったときに、漠然とというよりは、さしあたって幾らくらいというほうが、市も今の金額を聞いたらすぐでもいいかと思ってくれるかなという部分もあるので、ぜひその辺をまた、話をいろいろな形で詰めていただければと思います。

（山本委員）

ありがとうございます。

（西原会長）

ありがとうございました。山本委員、今回やってみて、だいたい予算とかがどのくらい掛かるとか、あるいは、もっと広げて、大きく、せっかくならもっと普及していってもいいかと思っているので、また市のほうに連絡いただいて、ぜひ予算を組んでいただくということもありかと思います。

（事務局：寺崎）

実施したときの情報などを、細かくいただければと思います。

（山本委員）

ぜひ参加していただいて。案内を。ご連絡します。

（西原会長）

ありがとうございました。

それから、青野委員から先ほどお話があったことですけれども、やはりすそ野を広げるというのはすごく大事なことだと思うのですけれども、いろいろな、今日ご紹介いただいた事業の中でも、トップアスリートだけではなくて、すそ野を広げる事業もあるのですが、なかなか単発的な事業だと難しいところもあって、やはりそういったすそ野を広げるためには継続的なクラブ組織を作ったりしないと、なかなかそういうものが普及しないと思っています。

新潟市の場合はまだ総合型クラブというもの、いわゆる「スポ柳都にいがた」プランの中

ではスポーツ振興会というものを位置づけているので、やはりスポーツ振興会をもう少し機能させていく中で、いわゆるすそ野です、スポーツが嫌いな子どもたちとか、なかなかスポーツにアクセスできない子どもたちを、きちんとスポーツができるような環境を整えていくとかいうことも必要かと思っています。

今、年間10万円ずつスポーツ振興会にお渡ししているのでしたか。

（事務局：小熊）

要綱上は10万円なのですが、予算上は9万円になっております。

ただ、一生懸命頑張っていらっしゃるスポーツ振興会については、それ以上にいろいろ、地域でスポンサーさんを探したりなどして、収入源を見つけながら頑張っている振興会もございます。

（西原会長）

同時に、高齢者への運動指導もそうですよね。やはりスポーツ振興会とか、地域で本当に身近に、住んでいる方々の近くにあるということがすごく大事だと思うので、またスポーツ振興会を活性化するということも一つの課題かと思いますので、お願いします。

ほかにいかがでしょうか。

（速水委員）

確認なのですけれども、この会というのは、新潟市のスポーツ全体のことを審議するということでよろしいのでしょうか。

（事務局：寺崎）

はい。

（速水委員）

ということであれば、先ほど幼稚園のお話も出ましたし、障がい者関係のお話も出ましたけれども、そういうところにかかわってくださっている行政の方たちもきちんとここへ出て、お話を聞いたり、熱を直接感じ取っていただかないと、伝達しますよでは、やはり少し弱いと思うのです。その辺を考えていただいたり、あるいは、現場を我々に見せていただく。何年か前にインターハイが新潟でありましたけれども、インターハイをやっている暑い中で、今インターハイをやっていますと言っただけで、別にそこへ行きましょうとか、まったくそういうことがなくて、そういうことがありましたので、これはお願いというか提案です。

（事務局：寺崎）

はい。検討したいと思います。ありがとうございます。

（西原会長）

以前この会に教育委員会の方も参加されていたような気がしますので、ぜひ、この審議会

に教育委員会の方とか、あるいは健康関係の部署の方、保健関係の方にも参加していただくといいかと思います。

（小島委員）

いろいろありがとうございます。

先ほどいただいた資料、すごくありがたくて、最低、先生が、ボランティア活動でやっていただくところから始まるかもしれないけれども、こういった情報をどんどん広めて、例えば私であれば、ミニバスの抽選会のときにだいたい保護者が来るので、そのときに一度西原先生にも来ていただいて、スポーツとはというお話で講演をしていただいたこともあるのです。そういった場面で、いろいろな団体が個々に呼んだとしても来ていただけるとありがたいと少し思ったりもしました。これが一つです。

最後に言いたかったのが、実はつい先日、「新潟市まち・ひと・しごと創生」の少子化対策部会にいるのですけれども、少子化を止めるにはというか、子どもを増やすには、では結婚してもらわないといけない。子どもを産んでもらわなければいけない前に結婚してもらわなければいけない。その前に出会ってもらわなければいけない。でも出会いの場を作っても、今、男子が弱いという会話になっていましたが、それと同じで、実はスポーツも、今、これだと種目で、ピンポイントできていますけれども、以前この会で一度言ったことがあるのですが、スポーツよりも前に、幼稚園であったり、幼稚園に入る前であったり、いかに遊んだか。今はあまり木登りはできませんけれども、公園でたくさん遊んだり体を動かすことをした子は、それが最初からできる子は自然とスポーツもできるのです。

やはり遊ぶ環境、なかなか今、先ほど野田委員がおっしゃったようにお母さんがスマホを触っている時代ですから、ミニバスの大会に行っても、連れて来られている幼稚園児であったり、それより小さい子は、お母さんのスマホで遊んでいるのです。そういった時代なので、なかなかそこも難しいかもしれないけれども、最近東区のほうで新しい、東総合スポーツセンターの隣にとてもすばらしい施設ができました。そういった施設がもっとたくさんできて、子どもたちがどんどん遊べる、どんどん体を動かせる、それこそご近所さんに怒られることなくボール遊びができる。今の子どもたちは近所で野球もできません、サッカーもできません。ですから、そういった施設がもっと増えるといいなということはすごく思うところなのですけれども、なかなか難しいとは思いますが、やはり幼稚園、それよりも前から体を育てる、「体育」の部分で、もっともっと頑張っていただけると、スポーツに進む子どもも増えるのではないかと思いますので、ぜひその辺もよろしくお願いいたします。

（西原会長）

ありがとうございました。

今のお話もそうですが、やはりスポーツはどうしても横断的なので、行政のくくりではなかなかくくれないところがあるので、例えば教育委員会とか保健関係とか、あるいは、国には今スポーツ庁ができて、国土交通省からも、あるいは経済産業省からも出向してスポーツ庁ができていますけれども、ここに、いろいろな市の行政のスポーツにかかわれる方々に、少しでも、一人でも出ていただくと非常にいいかと。もっと横断的にやっていくといいかと思いますので、ご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。公募のお二人も何かご意見がありましたら。せっかくですので。

（青木委員）

初めて参加して、ああ、こういうことに取り組んでいくのだなという、やはり一つ、１本というか、とにかく子どもを対象にしたものをどうやっていくかという、逆に言うと年寄りが元気みたいな状況もあるのですけれども、やはり子どもの状況で、先ほど山本先生も、私も野球にかかわっているのですけれども、すべて、ひじであるとか何とかという対処療法的な感じなのだけれども、その辺、いかに予防していくかということのほうが大事なのではないかという感じもありますので、こういう企画はすごくいい状況の中で、ここにどのようなメニューを取り込んでいくかということがこれからの内容になっていくかと思うのですけれども、医療ばかりではなくて、栄養面的な部分も取り入れていったほうが、けっこうおもしろい講座になっていくかと期待しておりますし、参加してみたいという感じがあります。継続事業が一番だなという感じがしますので、それをどういった形で取り上げていくか、その辺の枝分かれの部分で何か感じるものがあればいいなという状況があります。ありがとうございました。

（西原会長）

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

時間が５分ほどオーバーしてしまいましたが、それでは本日の議事はこれで終わりにしたいと思います。事務局、大変お手数をお掛けしますが、ご意見を反映させていただければと思います。よろしくお願いします。

司会を事務局にお返しします。

（司会：寺崎）

ありがとうございました。西原会長には円滑に議事を進めていただきまして、本当にありがとうございました。また、委員の皆様には会議の進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。本日の会議を、今後の事業を進める上での大変貴重な意見として生かしながら、またスポーツ推進への取組みに積極的に努めていきたいと思っております。今後

ともよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成30年度第1回新潟市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。